

# 10月定例記者会見 会見録

令和5年(2023年)10月4日(水) 11:00~11:55 庁議室

## 質疑応答

### ■筑波山ゲートパークの開所について

#### 記者A

「サイクルパークつくば」の初年度の来場者数の目標がありましたら教えてください。

#### サイクルコミュニティ推進室

一番の目玉である BMX レーシングコースは、国内の他事例を参考に 2,000 人から 3,000 人程度来ていただければと思っています。ただ、下半期はオフシーズンになりますので、蓋を開けてみないと分からない状況です。また、BMX だけでなく、つくば霞ヶ浦りんりんロードを走る方々にもお越しいただきたいと思っています。昨年のりんりんロードの利用者数は約 12 万人でした。りんりんロードは、霞ヶ浦側と筑波山側があり、こちらは筑波山側で、利用者のうち何人位にお越しいただけるのか具体的な数字の想定はしておりません。

#### 記者A

BMX のコースは、X Games が出来る施設として作られているのでしょうか。

#### サイクルコミュニティ推進室

BMX は、オリンピックでフリースタイルとレーシングの 2 種目に分かれています。東京オリンピック 2020 で話題になったのがフリースタイルで X Games 対象の競技ですが、今回整備したのは、2008 年の北京オリンピックから正式種目になったレーシングですので、X Games とは別のカテゴリーになります。

#### 記者A

つくば市は、自転車に重きを置いた施策が多く、良い取組だと思っています。一方で、茨城県は車社会で、自転車が歩道を走る場面を目撃することもあります。車と自転車の共存について、どのような将来像を描いていますか。

## 市長

共存は非常に重要だと思っています。まずは、安全に自転車に乗っていただくために、ドライバーの皆さんにも啓発をしていかななくてはいけないと考えています。例えば先日、イーアスつくばで行われた秋の全国交通安全運動キャンペーンでも、その点を啓発してきました。私も自転車に乗る際は車道を走りますが、必ずしも自転車が車道で優先される状況にはなっていないと思いますし、自転車レーンの整備も不足しています。専門家の方からは、基幹路線となる所には、大胆に自転車のレーンを増やすことが必要という指摘を受けました。例えば、東大通りのような大通りを県と連携しながら、しっかりと整備することで、安全で日常的な自転車利用に繋がっていくことも一定程度あると思います。東大通りには、歩道側に自転車レーンがありますが、つくば市は特に東西方向の道路網が弱いと言われているので、そのような所も活用していきけるような環境整備が必要だと思っています。合わせて、自転車に乗る側も安全講習等をきちんと受ける必要があります。現在、つくば市では高齢者向けに電動アシスト自転車の購入費補助事業を行っており、非常に好評です。これは、安全講習を受講いただいた方に、費用の一部を補助する形です。なかなか一朝一夕で解決する問題ではないと思いますが、自転車に乗る側も車を運転する側も、ソフトとハードの両面で時間をかけて取組む必要があります。まず歩み始めないことには実現しませんので、これからもできる限り努力をしていきます。

## 記者B

筑波山地域ジオパークの中核となる拠点施設「つくばジオミュージアム」の展示内容や特徴について教えてください。

## 市長

課題になっていた筑波山地域ジオパークですが、現在は周辺6市と一緒に協議会を設立して進めています。「つくばジオミュージアム」は、その全体像が学べる拠点として整備しています。ただの博物館のようなものと集客が厳しいのは他自治体の事例等でもありますので、どのような体験型施設であれば利用が増えるのかを担当者が全国各地を回ってリサーチしてきました。ジオパークに興味がある方はもちろん、観光から教育まで様々な目的で活用できる施設にしていきたいと考えています。

## ジオパーク室

1階は展示施設で、最も広いスペースには、子どもから大人まで遊びながら学べる展示台を6台設置します。受付では、「はてなカード」を配布し、ピンボールや砂場等の遊べる展示台を巡りながら筑波山地域の謎を解いていただきます。中には、筑波山を真っ二つにできる模型を設置し、筑波山の中はどのようになっているのかを確かめながら楽しんで学ぶことができる展示物もあります。その他、大型のモニターを展示した部屋や文化財に関する展示室があり、一番奥の部屋では週末にジオガイドや専門員によるワークショップを行うことができ、体験しながら学んでいただけます。2階は、市役所から移転したジオパーク室の事務室等になります。

## 記者 C

筑波山ゲートパークが以前、筑波東中学校だったときは、生徒や保護者等、地域の方々が集まる地元の拠点だったと思います。今後「つくばジオミュージアム」と「サイクルパークつくば」となり、外から来る方が増えると思いますが、地域活性化の視点からどのような事を一番期待されているのか教えてください。

## 市長

これまで、地元の方々には説明会等で繰り返しご説明をしてきましたし、区長さんたちからも様々なアドバイスをいただきながら事業を行っています。基本的にはほとんどの方々に、この事業をポジティブに捉えていただいています。私たちが目指している筑波山ゲートパークは、人を集約するのではなく、その名に示したとおり、門としてここから筑波山麓や周辺地域を周遊する拠点に使っていただきたいと思っています。例えば、子どもたちはBMXの利用に来て、保護者は周辺の飲食店での食事や筑波山を楽しんでいただけます。子どもたちが「つくばジオミュージアム」に行った後、詳しいジオサイトへの行き方をガイドに案内してもらって実際にそのジオサイトへ行ける体験型施設です。筑波山地域の入口として活用いただくことは、地域にとっても非常に大きなメリットがあります。筑波地区は、中学校2校・小学校7校という異例の規模での統廃合をしましたが、それにより多くの方々から寂しいという声が挙がっています。以前の学校を拠点にして、別の形で地域に賑わいを創ることができればと期待しています。

## 記者 D

広報つくば 10 月号の表紙に完成イメージの写真が掲載されていますが、実際に完成する施設はこのイメージのままでしょうか。それとも、この写真から更に色々な設備等が付くのでしょうか。

## 市長

表紙の写真は、ほぼ完成している場所の状態を写したものになります。

## 記者 D

BMX はイメージとして、もっと華やかな施設を想像していましたが、自然な感じの施設なのですね。

## 市長

スケートボード等にもあるフリースタイルは、技の難易度を競う競技ですが、ここの施設のレーシングは、スピードを競うコースです。フリースタイルのものとは異なるイメージで愛好家も多い競技です。

看板等はこれから付きます。今後の利用状況を見て動線等を確認しながら、来年度には、しっかりと外からも認識できるよう分かりやすくしていこうと思っています。

## サイクルコミュニティ推進室

広報紙の表紙写真には写っていないのですが、スタート台を設けており、オープンの 11 月 3 日までにはスタート位置を示すトラスが付く予定です。スタート台には 8 人の選手が横に並び、路面から跳ね上がっているスタートゲートが倒れるのに合わせて一斉にスタートします。BMX レーシングコースは有料ですので、フェンスも追加で設置しています。オープンに向けて、徐々に整備を行っているところです。ぜひ 11 月 3 日に取材をしていただければと思います。

## 記者 D

BMX レーシングコース完成の写真を撮るために、象徴的な設備があれば良いなと思っています。

## 市長

校舎からレースを観戦できるのが特徴です。事前にカメラ撮影のベストポジションを何か所かご提案できるようにしたいと思います。実際に現地に行くと凄く雰囲気があります。

## サイクルコミュニティ推進室

おそらく校舎屋上から撮影するのが、全体が写って一番綺麗なのですが、広報紙の表紙を撮影した当時は、奥の場所で初級者用コースを造成中でした。そのため、造成中の様子が写らないアングルの写真になっております。オープン当日はもっと良い写真が撮れると思います。

## 記者 E

筑波山ゲートパークの方向性は分かりましたが、この事業の背景やどのような課題を解決するために行うのか等について、教えてください。

## 市長

中学校2校・小学校7校の統廃合により、秀峰筑波義務教育学校が開校しました。本来望ましいのは、統廃合するのであれば旧学校の跡地利用についても同時並行で進めておくべきでしたが、そのような状況にはなっていませんでした。学校の跡地がどういう施設になれば、地域の皆さんに望まれるものになるのかを様々に協議して、順次進めているところです。地域の皆さんのご希望により、地域で利用している旧小田小学校のような場所もあれば、以前記者会見でお話したように、森林総合研究所と連携してクラフトジン蒸留所を設け、お酒の研究開発拠点とする場所もあります。また、大規模なものでは、旧筑波西中学校跡地に通信制高校のS校を誘致することに成功しました。旧筑波東中学校は規模が大きく、筑波山観光の入口となる場所にあります。地域の皆さんのほとんどがこの中学校の卒業生で、思い入れも強く、将来に渡って筑波山観光の拠点となるような場所にしないといけない思いを持っています。その中で、つくば霞ヶ浦りんりんロードが、接続する場所でありながら、つくば市側には自転車の拠点となる場所がありませんでした。また、周辺6市で筑波山地域ジオパークを作っているながら、その拠点もありませんでした。単機能の施設ではなかなか発展が見られないため、複合的な機能を持たせることにより、相乗効果が期待できます。また、ジオとサイクルは非常に相性が良く、これらを組み合わせることにより、地域で

続いてきたものを別の形で再生するという、今回の事業に至りました。

#### **記者 E**

より注目してもらえるものに変えていくこと、そして創造的なものをこの場所で生み出していくという考え方でしょうか。

#### **市長**

私の基本的な市政の考え方は、壊して新しいものを建てるのではなく、あるものは極力いかすということです。もちろん耐震基準を満たしていなかったり、倒壊の危険性があったりする建物は別ですが、そうでないものに関しては極力いかしていきます。再度学校にすることは出来ませんので、今のニーズに合い、その地域に必要なかつ望ましいものが何かを様々な形で協議し検討していく中で、今回この二つをセットにして整備していく形で進んできました。

### **■洞峰公園リニューアルについて**

#### **記者 D**

県で動きがあり、かなりの方向性が決まってきたと思います。つくば市として、今後どのような日程で進めていかれるのか、流れを教えてください。

#### **市長**

県議会の特別委員会でも、無償譲渡は妥当という結論を出していただきましたので、今後具体的な手続きに入っていくと思います。県議会の議論を尊重し、その方針が出るまでアンケートを保留にしておきました。来週位にはアンケートを実施し、それらを含め 12 月議会に諮ることができればと考えています。

#### **記者 D**

譲渡は年内でしょうか。

#### **市長**

議会で議決をいただいた後、色々やっていくことがありますので年内は無理だと思います。断定的なことはお伝えできませんが、来年 2 月頃だと思います。

## 記者D

譲渡で大きく変わるわけですが、外形的にも変わるところはありますか。

## 市長

突然、グランピング施設を作ったら驚かれると思いますが、そのようなことは無いです。どのような公園にするかは、協議会を設置し、地域や有識者の皆さん、県にも入っていただいて、皆でそのあり方を考えていきたいと思っています。そのプロセスの中で、どういう見え方になるのかも決まっていくと思います。

## 記者F

洞峰公園の更新費についてお伺いします。県の長寿命化計画での数字を足し合わせると、今後補修費と更新費で約 34 億円かかるとのことでした。一方で、市は年間約 3,500 万円と発表していますが、今後かかる費用は市の想定の 6 倍位になるのではないのでしょうか。また、9 月 25 日に県議会の特別委員会で、それに関する質疑があり、県は約 40 億円の更新費を見込んでいたとおっしゃっていました。なぜつくば市は、議会や市民説明会でこれらを説明しなかったのでしょうか。また、これからアンケートを行うということですが、市民や議会にこれらについて説明する予定はありますか。

## 市長

説明会では、これから大規模修繕が必要になったり、譲渡された後にすぐ壊れてしまうのではとご心配をされている方もいらっしゃると思いますので、それについては建て直しをせずに済むよう 80 年の期間に長寿命化して使っていくことをお話してきています。ご質問の更新費用について、更新の部分は約 31 億円と認識していますが、これはもともと県が長寿命化計画の指針を作る前に示されたもので、80 年という前提ではない数字です。つくば市としては、現在の県の指針に基づき、このような構造物は 80 年使用していく考えです。また、実地調査でも、建物の更新は必要ないと確認しており、例えばフィールドハウスについては、軽微な修繕で利用可能という判断がなされていますので、説明に瑕疵があったわけではありません。もともと 31 億円という数字は、県の指針が更新される前のものであり、市としては、修繕維持をしながら 80 年使用する方針です。それがご説明した内容の全てです。

## 記者 F

それは認識が間違っていると思います。県が示した数字は、国が出した指針に基づいた長寿命化計画で、80年もたせるとすると全体で約40億円、施設だけだと約32億円かかると説明がありました。市が発表している年間3,500万円の補修費についても、同様に県が試算した長寿命化計画のライフサイクルコストから算出している数字だと思いますが、同じ資料からの数字なのに、なぜ補修費だけを積み上げて、一番額が大きい更新費を説明しなかったのか、これは重大な問題だと思います。

## 市長

県による更新費は、2016年に実施された健全度調査で出されたもので、この中で更新費は約31億円とされていました。県の長寿命化計画の指針は2017年に作られていますので、長寿命化の方針もそれとは変わっています。ただし、電気・設備等は、15年位で更新しなくてははいけませんので、それらについては、年間3,500万円の中で吸収をしています。今ある箱を壊さず、修繕をしながら80年使用していくために年間3,500万円の修繕費を計画しているという説明を、これまでもしてきました。

## 記者 G

お話を聞いていると、市民や議会に対して、市が支出する予算をできるだけ少なく見せるために、洞峰公園の施設がボロボロになっても良いのだと言っているようにとれます。市民と議会に快くOKを出してもらうために情報操作をしているようにしか聞こえません。それについて真剣に議論はしたのでしょうか。

## 市長

そのようにお考えになるのは結構なのですが、市として全体の維持管理費を最小化していくことは当たり前のことです。予防保全という考え方をご存知でしょうか。急な取り壊しや建て直しを防ぐために、毎年費用をかけながら建物を丁寧に予防的に修繕していくことです。建物を長く使うことは、つくば市に限らず当たり前の考え方ですので、数字を小さく見せるといった次元の話では無いと思います。加えて、例えば県がパークPFIの計画を出した際、今後かかる費用として、フィールドハウスの更新費が積みまれていました。この更新というのは、建物を壊すという意味です。先程申し上げた長寿命化計画の中で、フィールドハウスの更新は2060年頃になっていましたが、実際に県と一緒に専門業者も含めて現地でフィールドハウスの状態を確認したとこ



ろ、壊す必要は全くないという結論が出ました。他の建物についても十分使えて 80 年で管理していくとしています。県と話をし、専門家にも見ていただいて、更新はしなくて良い、建物を壊さなくて良いという結果でした。逆に、十分使えるような建物を壊す計画にすることは、税金の無駄遣いになります。今ある建物を、できるだけ丁寧に修繕しながら長く使います。さらに、80 年という数字も下限値で、県の指針でも市の長寿命化計画でも、鉄骨構造の建物は最低 80 年使用することになっています。本来は壊すべき建物なのに、それを壊さずに情報操作をしているとおっしゃるのであれば、ファクトとは異なりますが、ご見識の問題になってきますので、これ以上の解釈について踏み入ることはしませんが、市としてのファクトについては、ぜひご理解をいただければと思います。

## 記者 G

極力費用をかけたくないというのは、誰でもそうだと思います。ですが、このようなデータが県から出ていたことを注釈付きのような形でも良いですからオープンにしておかなければ、前提が崩れて市民説明会や市民との議論が成立しないのではと思います。できるだけ節約するのが良いというのは気持ちとして当然です。基本的なデータを外に出さず、出てしまってからそのような理屈、はっきり言いますと言い訳するのは、情報操作としか思えません。なぜもっと早く、「県からこのようなデータが出ていますが、県と市の解釈は異なります。なぜならばこういう理由だからです。」と出さなかったのでしょうか。そのようにしないと、議論が成り立たないと思います。

## 市長

まず議論の材料としての前提が違います。つくば市は更新をしませんし、県もそれを必要無いと判断しており、年間 3,500 万円の投資をしながら 80 年使っていくと説明会や議会で説明してきています。そもそも、そのように使う前提では無いものの数字を出すことの意味は特に無いと思っています。議論の前提としては、つくば市は大切に修繕をしながら 80 年以上使っていくことであり、これは他の公共施設でも同じです。更新をしないのに、「更新をしたら幾らの費用がかかります」と伝えることは、議論の本筋と全く別になりますので、説明をする必要がありません。更新はしないのですから、議論の前提が異なるということです。

## 記者 G

常識的に、建物や橋、道路等は修繕のマニュアルに従って維持するのが公共事業体の基本です。そうでなければ、市民は大丈夫かなと不安な気持ちになります。おっしゃるとおりに進めて建物等がボロボロになったとしても、何十年も先のことで結果は分かりませんから立証は出来ないと思います。その場合どのように責任を取るのでしょうか。

## 市長

それは、3,500 万円の中できちんと修繕して、長く使っていくということです。そもそも長寿命化計画では 80 年とされていますので、当然ながら現在の責任のある人がそのときまで同じ立場にいることは、余程の例外を除いては無いと思います。ただ、もしそうだとした場合、できるだけ良い状態で 80 年を迎えるために、今のうちから投資をしていきます。80 年で建物を壊すということではなく、最低 80 年です。また、健全度調査は定期的の実施しますので、そこでもし瑕疵があれば適宜対応し、大切に長く使っていきます。何もせずに建物等がボロボロになって責任逃れをするということとは真逆のことをしていると、ご理解いただけますとありがたいです。

## 記者 G

経営に対する考え方が私とは基本的に異なるのだと思います。もし私が同じ立場であれば、県の支出についてのシナリオを示し、それが県から市の支出に移りますので、しかるべき費用がかかることを説明します。そして、「これまで説明してきた予算の倍位かかりますが、市民の皆さんのためになるので税金を負担してください」と説得します。この方が、全体の組み立てとしては正しいのではと思います。「年間 4、5 億円かかりますので、皆さん負担してください」と説明した方が、綺麗にまとまるのではと思いますが、なぜそうしないのでしょうか。

## 市長

私は市の経営をする立場としてお話をしています。かかる費用は、1.5 億円プラス 3,500 万円で、その負担があるということと、長期的に使っていくということでお話をしています。4、5 億円かかるとしたいお気持ちは伝わってきますが、事実はそうではありません。学生が最初に学ぶことの基本は事実と推論を分けて考えることです。僭越ながら、事実と推論を分けて整理して質問いただくと、このやりとりも建設的に

なると思います。

## 記者 G

更新費とは何を指すかの認識が、市長は間違っていると思います。更新費は、建て替えることではありません。建築の部材や設備を新しいものに交換し、建て替えずに 80 年もたせましょう、ということです。例えば以前、プールのタイルを交換しましたが、これは更新費にあたります。国の長寿命化計画できちんと決まっておき、情報公開がされていますので読んでいただければと思います。

建て替えてしまったら、予防的措置にはなりませんので、建て替えずに 80 年もたせましょうというのが長寿命化計画です。また、県の指針は 2017 年とのことですが、国の指針が作られて、その後県の指針が出ただけです。調査自体は国の補助金で行っていますので、2017 年に県の指針が出来たからといって、調査内容が長寿命化計画と異なるということはありません。

## 市長

中身の部分等については、交換すべきものは 15 年で交換をします。或いは、必要に応じて適宜修繕をしていきます。それらの費用については、修繕費で今後かかってくるものとして 3,500 万円の中で当然見ている数字です。

## ■広域避難計画について

### 記者 E

先月、県北の自治体で、原子力災害における広域避難計画を年内に策定する方向性が示されました。つくば市は、事故が発生した際に避難者を受け入れる自治体で、1 人当たりの避難所面積が、2 m<sup>2</sup>から 3 m<sup>2</sup>に拡大されましたが、その面積は確保できそうでしょうか。また、広域避難計画の課題について、考えをお聞かせください。

## 市長

今後、水戸市と協議を行って、つくば市として出来る限りの対応をしたいと考えています。避難所面積は、スフィア基準によるものだと認識をしていますが、まだ受入人数がどれぐらいになるかの計画が、水戸市から示されておりません。つくば市としては、避難所を新たに増やし、81 か所で準備をしていますので、それらを活用していきたいと考えています。広域避難計画の課題等については、裁判等でも示されています

が、どういう形の移動をするのか等も含め、現実的な計画を作るのは非常に困難という認識を持っています。

#### **記者E**

避難所は、81 か所に増やすのでしょうか。それとも 81 か所から増やすのでしょうか。

#### **市長**

今年 4 月に 9 施設増やし、81 か所になりました。現在 81 か所です。

#### **記者E**

これで大体の受入人数分は確保できるのでしょうか。

#### **市長**

まだ水戸市の計画が出来ていませんので、必要な受入人数のお話をいただけてみないと足りるのかどうか分かりません。県南の自治体が水戸市の受入先になっていますが、それぞれの自治体でどのように分配する計画なのか等によると思います。現時点で、受入人数のお話があるわけではありませんので、これからの協議になります。出来る限り、協力して協議をしながら、実現に向けて努力していきます。

#### **記者E**

広域避難計画の課題として、現実的な計画を作るのは困難とおっしゃいましたが、受入側としても、計画を作るのは時間がかかりそうでしょうか。

#### **市長**

計画は受入側が作るものではなく、避難対象自治体の 14 自治体が作るものです。その計画に基づき、私たちが対応することになります。大規模な自治体であればあるほど、広域の実行性ある避難計画を作るのが非常に難しいと思っています。不可能と言っているわけではなく、つくば市がそのような作業をしているわけでもありませんので、これ以上は申し上げませんが、20 数万人の方々を適切に適宜、そのときの風向き等を含めて、混乱なく必要な場所に避難させるのは、相当困難な作業だという認識です。

## 記者E

受入側として、この部分をクリアにして欲しい等の注文はされていますか。

## 市長

水戸市と協議はしますが、まずは計画の策定側で協議いただくことだと思います。おそらく水戸市の皆さんも非常にご苦労されていると思いますので、現時点で何か注文をすることはなく、出来る限り協力をするスタンスです。今後、対応可能なこと等について、しっかりと協議していくと思います。

## ■市役所窓口の受付時間変更について

### 記者 G

受付時間が変更になって2日経ちますが、閉庁後に来られた方は全部で何人位ですか。また、職員の残業時間はどれくらい減りましたか。

## 市長

今はまだ始まったばかりで、データを取っているところです。開庁前から並ばれることは以前からありました。閉庁後に来られた方については、1日当たり何人位なのかをもう少しまとまったデータで後ほどお示しできると思います。私は一昨日(10/2)、窓口にいましたが、これまでのデータからすると、受付終了後にもっといらっしやると思っていました。想定より少なかったです。実際に来られた方にお声がけ等もさせていただきましたが、色々とお説明するとご理解いただけました。職員は初日から早速、ミーティング等が出来たと言っていました。それらのデータはもう少し長い期間をかけて蓄積していくものですし、きちんと分析ができればお示しをしたいと思っています。

終了